

令和3年度第6回紋別市総合教育会議録

- 1 日 時 令和4年1月20日（木）午後3時00分～午後3時28分
- 2 場 所 紋別市役所 市長応接室
- 3 出 席 者 紋別市長 宮 川 良 一
紋別市教育委員会教育長 堀 籠 康 行
紋別市教育委員会教育長職務代理者 小 林 正 男
紋別市教育委員会委員 上 林 善 證
紋別市教育委員会委員 渡 邊 孝 博
紋別市教育委員会委員 古 屋 真由美
- 4 構成員以外の出席者
- 5 事務局関係 教育部長 佐 藤 健 吾
学務課長 仲 条 憲 明
学務課指導主事 綾 部 雅 一
学務課庶務係長 米 田 晃
- 6 協議内容 (1) 紋別市の学力について

令和3年度 第6回紋別市総合教育会議 午後3時00分開会

○宮川市長

定刻になりましたので、令和3年度第6回紋別市総合教育会議を開催いたします。進行につきましては、私が務めさせていただきます。

それでは、次第に基づいて、本日の協議に入らせていただきます。

協議事項（1）紋別市の学力について、事務局から説明をお願いします。

○綾部学務課指導主事

それでは学力の状況について、私の方から説明をさせていただきます。資料の1ページをご覧ください。9月の総合教育会議で、全国学力調査の結果についてご報告をさせていただいたところですが、その後、調査結果の分析を行いまして、分析の「概要」を広報もんべつ12月号に掲載したものがこちらの資料となっております。

今年度の調査結果は9月にご説明申し上げたとおりですが、調査開始以降最も全国との差が縮まる結果となりました。

1ページ中段「各教科の調査結果の概要」をご覧ください。小学校につきましては、国語の「話すこと・聞くこと」、「書くこと」において全国平均を超えている一方で、「読むこと」や「言葉の特徴や使い方に関する事項」の値が低くなっています。「読むこと」に関しましては、全国調査と別のデータもご覧いただきたいと思います。

算数につきましては、「図形」の領域以外は90%台ですが、「図形」のみ80%台に落ちこんでいます。標準学力検査のデータでも「図形」に課題があることがわかっています。図形の領域では、「どのように求めたのかを説明する」問題の正答率が全国に比べて10%ほど低く出ております。例えば、学力調査で出題された直角三角形の面積を求める問題では、底辺かける高さ割る2で求められるところを、斜辺を下にして出題されたことで、正答率が実に全国で55%、紋別市は43%と低くなりました。半数以上の児童がこれを解けてなかった、ということになります。これは、単純に公式を覚えるだけではなく、どうしてどのように求められるのか、知識をより深い概念として理解していないと解けない問題となっていることがわかる一つの例です。日常の授業の中で、求め方について自分の考えを説明したり対話したりする学習場面を充実していく必要があると考えられます。

次に、中学校につきましては、国語の「話すこと・聞くこと」が全国並みであるのに比べ、他の領域は80%から90%台となっております。数学につきましては、どの領域も70%から80%台と、低い水準となっております。

次に、児童生徒質問紙調査結果にみられる傾向をご覧ください。児童生徒質問紙調査では、「自分でやると決めたことはやり遂げる」、「人の役に立つ人間になりたい」、といった項目で、全国に比べて「当てはまる」と答えた児童生徒が多くみられました。一方で、「朝食を毎日食べている」、「スマホやコンピュータについて、家の人と約束したことを守っている」、「自分にはよいところがある」といった項目で、全国に比べて「当てはまる」と答えた児童生徒が少ない傾向がみられました。また、一日当たりのゲーム時間についても、全国や全道に比べて長い傾向が見られました。いずれの項目も、家庭において保護者が子どもの育成にどれだけ関与しているか、ということに深く関わる項目であると思います。また、学力との関連を分析したデータからは、一定程度の因果関係があることもわかっております。今後、家庭への周知を含めまして、家庭での学習・生活習慣に関する課題意識を持っていただけるよう取り組んでまいりたいと考えております。

以上が、調査に関する分析の概要となっておりますが、紋別市の児童生徒は、引き続き「伸び」が期待できる状況にあるということ、こうした状況が今年度だけで終わらないよう、具体策を今後もしっかりと学校間で共有して参りたいと考えております。また、単純に学力の数値を向上させるだけではなく、問題解決能力などの未来を生き抜くための力を育成して、「人づくり・まちづくり」につなげていく、という考え方をしっかりと持って、取組を進めてまいりたいと考えております。

簡単ではありますが、説明は以上とさせていただきます。

○宮川市長

それでは、ただ今、事務局から説明がありましたが、何かご意見がございましたらお願いしたいと思います。

○小林委員

意見という訳ではありませんが、一市民として、一教育委員として、学力調査が全国レベルに大きく近づくところがあるというのは、大変喜ばしいところです。競い合っている訳ではないので、不断の指導等が実を結んで、こういった結果になったのではないかと考えます。令和3年度は、小学校は10%ぐらいの伸び、中学生はあまり伸びていませんが、中学校に入って急に変わるというのは難しい面があると思いますので、小学校の低学年のうちから、いろいろ、良い方向に向かった指導をしてもらおうと、中学校に行っても、引き続き、中学校においても伸びるのではないかと考えます。

○上林委員

今後、教科書もデジタルに変わっていくことになると思いますが、それに伴って変わってくることもあると思います。習慣として、紋別の子どもは、読書という習慣については、身につけてきているので、そこを家庭でも、家庭で「勉強して、勉強して」と言っても難しいと思いますが、「本を読みなさい」と言うのは、習慣として身に付けられるのではないかと思いますので、そういったことを願うような形で進めていけば良い方向に進むと思います。

○渡邊委員

勉強とゲームの関係は、どれぐらいあるのか分かりませんが、どうしてこのようにゲームをする時間があるのかなと思います。逆に言うと、全国や北海道のゲームをする時間が少ないことは、どうしてだと思います。環境はそれほど変わるものではないと思います。どこの保護者も「ゲーム止めなさい。」と言うのは、変わらないと思います。また、ゲームをする時間の差は何なのかと思います。ゲームをしないから勉強するのかというと、そうではないと思います。他の地区は、やり方が上手なのかなと。そうするには、どうしたらいいのか。ゲームをするばかりが、学力の低下に繋がっているとは思わない。先ほど話していた三角形の面積の求め方、恐らくゲームをやろうとしたときに、いろいろな方法を探ると思うのですよね。その問題も、同じようなものだと思います。探るという点では、あながちゲームが悪いと考えにくい。方法を探るのは、これだっていう、今のゲームは多様的で、いろんな方法が探せると思うのですよね。そうだとすれば、ゲームが悪いと言うのではなくて、そのゲームの使い方、あれでこういうふうにも考えられる。例えば、いろんな方向、視点から見るというようなことも、ある種、あるのかと思うのですよ。例えば、これを固定観念で考えるのではなく、もっと多方向から見られるようなやり方をしなさいみたいな。そういうふうにとると、ちょっと考え方というか、見方が変わってきて、いろんな考え方ができるのかなと思います。ただ、やみくもにそのゲームの時間が長いから学力が下がるとか、そういう訳ではないと思います。あとは、家庭環境によると思いました。例えば、保護者が共働きで、子どもだけしかいない。例えば、学童保育にだけ預けている訳ではないと思うのですよね。家で例えばゲームやる、やらざるを得ない環境にあるとか。そういうことも関係しているのかなという気がします。ただ、それであっても、ゲームの時間が長くても小学生は学力が伸びてきているので、そういうものに没頭するのも、あながちマイナス要因ではないと僕は思うのですよ。ただ、伸びてきていることが、とても良いことだと思いますし、多分これは先生方の努力もあると思うのですよね。マイナス面ばかりではなくて、伸びているっていうことが実態ですから、それをもう少し伸びるようにするにはどうしたらいい

かっていう、そこをもっともっと何か探るといふか、恐らく、ゲームやっているということは、デジタル化してタブレットになってくると、親しみやすいといふか、移行しやすいような気もするのですよね。今後、ちょっと期待をしたいといふか、伸びてきている部分を見ていきたいと思ひます。

○古屋委員

保護者の関わり方で、子どもの学力が伸び、時間使い方の工夫でこう伸びますよと、保護者に周知していただくのが一番だと思ひます。保護者も忙しいと思ひますが、子どもに少しでも関心を持つことで、こんなに伸びていきますよという情報の発信をしていただけたらと思ひます。

○宮川市長

まず、いい加減にゲームを止めなさいという声を聞かない日がありませんね。

○古屋委員

一人で留守番させておくと、やはり、ゲームをして待つという状況は、仕方ないと思ひます。それをどう上手にやるのか。

○渡邊委員

スマホを持っていたらゲームができてしまうではないですか。子どもから切り離せない状況となっています。ゲームをやる子どもは、多分、隠れてもやります。ただ、正直に言っているだけだと僕は思ひます。嘘を書けばそれまでですが。全国の状態も、そんなに変わらないと思ひますが。やればできる、このように学力が伸びてきているので。それは、ひとりひとりの努力もあるだろうし、全体として底上げしてきていることなので、ちょっと意識が変わってきているのかなという気がします。結果として、このように出てきているので。

○宮川市長

兄弟がいて、お兄ちゃんが1時間ゲームやっていたら、弟がずっと見ていて、その後、弟が1時間やったら2時間になってしまう。本人は、1時間だと言ひますが。今後、どのような状況になるのでしょうかね。商業ベースで、新しい物が出てきているので。

○渡邊委員

今のゲームは、たちが悪くて。オンラインでできます。繋がっていなければ、止めたいときに止めることができますが、オンラインだと、止められない。どう

して止められないと怒ったことがあるのですが、繋がっているから止められない。そういったものがだんだん増えてきていて、それに踊らされているというのが事実です。そういったものの面白さを覚えると、なかなか抜けられない。また、友達とも繋がってしまう。地域が関係なく繋がって、何時やるから来てくださいというようになっている。ゲームの時の会話も聞こえるし、やり取りがすべて見える。怪しいものではないのですが、繋がっていく。面白いのが、連携したりすることができるので、協調性は身に付けられるのではないかと思います。親の思いどおりにならない。突然切ってしまうと、相手に迷惑がかかるので、切ることができない。ゲームの質が変わってきています。

○堀籠教育長

1 ページ目の学力調査の結果で、皆さんお気づきかもしれませんが、ゲームの時間が長いというのは、家庭との関わりが少ないから、声かけが少ないからゲーム時間が長くなる傾向があるし、自己肯定感というのも、肯定してくれる立場の人が少ないからだと思います。朝食を毎日食べているというのは、子どもをどれだけ気にかけているのかというところもあります。いずれも家族や周りの方が、子どもにかける関心が少し低いのではないかという結果が出ています。やはり、一人親の家庭や共働きが多くなってきているので、なかなか、子どもに意識を向ける機会が少なくなっている。そこで、学校や地域など周りの人達が子ども達に、認めてあげるとか。紋別でも部活動もありますが、活動の中でも自己肯定感などを育成することができますので、学校教育や社会教育を含めて、学力だけではなく、生きていくためには、自己肯定感を持つことが大切だと思います。そういったところも勘案しながら、教育委員会全体としても、今後、進めていきたいと考えております。

○宮川市長

よろしいでしょうか。以上で、第6回紋別市総合教育会議を終わらせていただきます。どうもありがとうございました。

午後3時28分終了